



## 患者総合支援センターの体制が変わりました

患者総合支援センター長 上倉 裕紀

平素よりお世話になっております。

緊密なる地域医療連携を構築できるようにと2025年4月より体制が変わりました。

岩瀬滋医療安全管理部長のもと、上倉裕紀患者総合支援センター長、大淵美紀副センター長、品田都子看護師長となりました。三人でそれぞれの専門性を活かしながら、患者総合支援センターをより立てていきたいと思えます。当センターは、看護師18名、ソーシャルワーカー8名、事務員4名で運営していきます。

患者総合支援センターは、患者さんとご家族の療養に関するサポートを担っています。今以上に、シームレスな地域との連携も深めてまいります。どうぞ、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

地域医療支援病院として運営していく上で、紹介率・逆紹介率は大変重要な指標になります。地域医療機関の先生方と密に連携ができますようこれからも努めてまいります。昨年度から、地域連携活動として、訪問活動も強化をしてまいりました。紹介元医療機関に逆紹介するという当院の方針をしっかりと根付かせていきたいと思えます。今後とも取り組みを継続していきますので、よろしくお願いいたします。



### ◆令和6年度 紹介率・逆紹介率

|          | 4月   | 5月   | 6月   | 7月   | 8月   | 9月   | 10月  | 11月  | 12月  | 1月   | 2月    | 3月    |
|----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|-------|
| 紹介率 (%)  | 88.7 | 87.2 | 88.5 | 90.4 | 84.7 | 91.3 | 87.6 | 88.0 | 88.2 | 87.7 | 87.7  | 87.6  |
| 逆紹介率 (%) | 88.7 | 92.0 | 90.5 | 87.9 | 91.3 | 99.8 | 87.9 | 89.5 | 94.5 | 94.0 | 105.7 | 114.9 |

### ◆令和6年度 共同利用件数

|             | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|-------------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| MRI         | 44 | 43 | 37 | 41 | 24 | 24 | 24  | 38  | 37  | 36 | 26 | 30 |
| CT          | 33 | 25 | 32 | 50 | 32 | 40 | 46  | 48  | 27  | 27 | 35 | 32 |
| RI (PET/CT) | 8  | 10 | 12 | 10 | 5  | 4  | 5   | 7   | 10  | 6  | 6  | 5  |
| RI (PET以外)  | 27 | 16 | 21 | 22 | 22 | 23 | 26  | 25  | 16  | 18 | 19 | 24 |
| 骨密度         | 12 | 9  | 5  | 14 | 8  | 7  | 13  | 17  | 8   | 10 | 3  | 6  |

## 院長のあいさつ

藤沢市民病院 院長 西川 正憲



連携登録医の皆さまには、日ごろから当院の運営にご協力いただきまして感謝申し上げます。

当院は、1971年の開院以来、藤沢市医師会、藤沢市歯科医師会、藤沢市薬剤師会をはじめ地域の医療機関、連携登録医の皆さま方との緊密な診療連携を築き上げながら、皆さまから信頼される地域の基幹病院、高度かつ高質な急性期総合病院として、常に「より良い医療」を提供するべく運営しています。皆さまのご支援ご鞭撻ご協力を賜りながら、地域医療支援病院、救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院、小児救急医療拠点病院、県周産期救急医療中核病院、災害拠点病院、第二種感染症指定病院、臨床研修指定病院などの認定・指定を受け、湘南東部医療圏に限らず、神奈川県

を代表する病院の一つとして発展することができています。連携登録医の皆さまをはじめ当院を支えてくださる全ての人たちからのご厚意の賜物であり、心から感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は、2023年5月に感染症法上の5類感染症に位置付けられ、社会生活は活気を取り戻してきています。しかし、マスク着用、手洗い、うがいなどはするものの、3密対策などの非薬理学的介入が解除された以降、様々な感染症が顕著に流行しています。2024-25シーズン特に年末年始の季節性インフルエンザと新型コロナウイルスの大流行は、5年前の医療崩壊寸前を想起せざるを得ない状況にもありました。私たちにいわゆる「免疫負債」が生じ、様々な感染症の流行状況が従前と異なってきています。新型コロナウイルス感染症は、特に重症な場合には免疫系に長期的な悪影響を及ぼすこと、また軽症であっても自然免疫細胞と獲得免疫細胞の長期的な減少をもたらすことが明らかにされています。一方で、新型コロナウイルス感染後の重症化や症状遷延(いわゆる後遺症)などについてはまだまだ解明すべき課題があることも事実です。

当院では、引き続き適切な感染管理体制を継続し、皆さまから信頼される地域の基幹病院、高度かつ高質な急性期総合病院として、これまでも継承・発展しつつ、「より適切な地域医療連携が構築できる」「より多くの患者さんに選んでもらえる」「より良い医療を提供できる」「より良い医療人になる」ように、職員一同、今後も努力を続けてまいります。

2025年4月1日、管理部に赤坂理診療部長を、内視鏡センターに福地剛英センター長と近藤新平副センター長を、化学療法センターに草野暢子センター長を、緩和ケアセンターに佐伯美奈子センター長を、患者総合支援センターに上倉裕紀センター長と大淵美紀副センター長を配置し、さらなる緊密な地域医療連携を構築できるように適切かつ積極的に取り組んでまいります。

これからもご支援ご鞭撻ご協力を賜りたくよろしくお願いいたします。



## 病院幹部のあいさつ

### 副院長 岩瀬 滋

2025 年 4 月より藤沢市民病院副院長 3 年目となりました。昨年に続き医療安全管理部長も兼務させていただきます。

近年の医療は高度に専門化している一方、高齢化とともに合併疾患も増え、単一の診療科だけでは問題解決ができない状況が多くなっております。医師・看護師のみならず、その他の多くの医療職、医療職以外も含めた総合的な連携が必要とされます。また、患者さんやご家族との話し合い、地域との連携など連続性のある対応が求められております。

職員一人ひとりが安心安全な医療の一翼を担っているとの自覚のもと、一層のレベルアップを図っていき、急性期病院として、地域の皆様に頼りになる病院と認知していただけるよう努力していく所存です。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

### 副院長 山岸 茂

4 月より副院長兼医療技術部長を拝命しました山岸 茂と申します。初期研修医として藤沢市民病院で 2 年間研修し、2010 年に外科医として再赴任して現在に至ります。これまでの臨床経験と地域医療への活動を活かし、副院長として院長を補佐するとともに、医療技術部長として各部門が最大限に能力を発揮できるよう支援してまいります。医療技術部では、薬局、放射線室、臨床検査室、リハビリテーション室、栄養室、臨床工学室など多職種が連携し、安全で質の高い医療の提供を目指しています。今後もチーム医療を柱に、患者さんに信頼され、選ばれる病院づくりを推進していく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

### 副院長 鈴木 勇三

藤沢市医師会理事で藤沢市民病院 OB の鈴木勇三です。2022 年から非常勤副院長を務めさせていただいております。かつて議論していた 2025 年問題は既に到来し、今後は 2040 年問題に向けて地域医療の再構築が必須となっています。PHR(Personal health record)、かかりつけ医機能制度、高齢者救急を含めた市内救急医療体制の再整備等が始動します。地域医療支援病院である藤沢市民病院を中心に、市内各病院、かかりつけ医療機関である医師会各施設とのさらなる連携強化が求められています。また地域住民の方にも医療制度改革についてご理解いただかなくてはならないことが生じてまいります。「健康寿命日本一の元気都市」になるためには医療の基盤が重要です。今年度もよろしくお願いいたします。

### 診療部長 赤坂 理

このたび診療部長を拝命いたしました赤坂理です。以前から救急科ならびに救命救急センター長として地域の救急医療に携わってまいりました。

当院は、特に重症や難治性疾患などへの高度な医療を提供する高度急性期総合病院として地域医療の中心的な役割を担っております。新型コロナウイルス感染症が蔓延した際も病院一丸となって対応してまいりました。

現在、国は外来・入院・在宅・介護連携も含めた「治す医療」「治し支える医療」を担う医療機関の役割分担を明確にし、地域完結型の医療介護提供体制を構築することを求めています。当院の役割である地域医療支援、救急医療、がん・ゲノム診療、小児・周産期医療、災害対応などの急性期総合医療の質をより向上させるべく全力を尽くして努めてまいります。また、病診連携、病病連携また介護連携を推進し、安心安全な地域医療を作り上げられるよう皆様のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。



左から 駒野看護部長・赤坂診療部長・岩瀬副院長・西川院長・鈴木副院長・山岸副院長・事務局長

### 看護部長 駒野 美子

2024 年 4 月より看護部長を務めております、駒野美子でございます。

看護部では、春の訪れとともに新採用看護職員を迎え、「観察力」「対話力」「つなぐ看護」をキャッチフレーズとし、人を大切に、安全で質の高い看護が提供できるよう日々努力を重ねております。

今年度も患者さん一人ひとりのニーズを大切に、患者さんが安心して地域で暮らせる環境作りに、地域の皆さまとともに取り組んでまいりたいと思います。

また、当院の専門看護師、認定看護師、特定行為研修修了者も活用していただき、地域の皆さまとの交流を深め、地域連携に努めてまいりますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

### 事務局長 峯 浩太郎

事務局長に就任し、2 年目を迎えました。“縁の下の力持ち”として藤沢市民病院を支えてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、本年 4 月施行の藤沢市市政運営の総合指針 2028 では、目標のひとつに「誰もが自分らしく暮らせるまちをつくる」を掲げています。

これは概ね 20 年先を見据え、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、保健、医療、福祉、介護を更に充実させ、ともに支え合う地域社会を築くことを目指したもので、その実現には、必要な時に適切な医療・介護が受けられるよう、地域の医療機関や福祉・介護事業所等、関係機関の連携とネットワークの構築が求められます。

藤沢型地域包括ケアシステムの推進に向け、今後とも皆様との連携強化に努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。